

第7期・第2回米沢市介護保険運営協議会議事録（除 事務局説明）

日 時 平成30年12月20日（木）午後1：30～午後2：20
会 場 米沢市役所 B棟第5会議室
出席委員 加藤 守匡、鈴木 藤雄、渡部 宏一、亀岡 淑子、宍戸 千香子、情野 藤雄、田島 美佐子、長沼 勇作、村岡 秀也、山口 智早子、五十嵐 勝、木村 幸子、情野 薫
欠席委員 仁科 盛之、草苅 美紀、
事務局 健康福祉部長、税務課長、国保年金課長、社会福祉課長、健康課長、高齢福祉課長、高齢福祉課長補佐、高齢福祉課長補佐兼高齢福祉係長、事業管理係長、南波主任、加藤主事
傍聴者 なし

1 開会

【事務局】

これより、第2回米沢市介護保険運営協議会を開会いたします。はじめに、会長より挨拶をいただきます。

【会長】

皆さん、こんにちは。年末のお忙しいところ、今日もご出席いただきましてありがとうございます。今年最後の介護保険運営協議会となりますが、ぜひ皆さんの意見を頂ければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

本日の会議は、仁科委員と草苅委員の2名が欠席されておりますが、米沢市介護保険運営協議会条例第7条第2項の規定に基づいて、委員の半数以上が参加されておりますことから、本協議会は成立することをご報告します。

続きまして、2番の協議に移りたいと思います。協議会の進行は、会長が議長となることとされておりますので、ここからの進行は、加藤会長よりお願いいたします。

【会長】

それでは、協議会条例に基づきまして、議長を務めさせていただきます。

協議・報告に先立ちまして、米沢市情報公開条例の規定に基づき、会議及び議事

録の公開について確認いたします。事務局に確認しますが本日の協議・報告について、非公開とすべき案件はありますでしょうか。

【事務局】

「ありません。」

【会長】

ただいま事務局から、非公開とすべき案件はないとありましたので、本日の会議につきましては会議・議事録ともに公開としてもよろしいでしょうか。

【委員】

「異議なし。」

【会長】

ありがとうございます。会議が円滑に進みますよう皆さまのご協力をお願いいたします。それでは、次第に沿って進めたいと思います。

2 協議

(1) 地域密着型サービス事業者（小規模多機能型居宅介護）の公募結果について

【会長】

協議（１）「地域密着型サービス事業者（小規模多機能型居宅介護）の公募結果について」、事務局説明をお願いします。

【事務局】

《事務局説明省略》

【会長】

ただいまの件について、何かご意見等はございますでしょうか。

【委員】

このたび、第二中圏域と南原中圏域に小規模多機能型居宅介護が設置されるということで良かったなというふうに考えております。もちろん、このたびも厳正で公正な審査で行われたと考えておりますけれども、あくまでも参考までにお伺いしたいのですが、「米沢市地域密着型サービス指定候補事業者募集要項」に定めるところの審査基準のチェック項目の数とこの報告書にはあまり記載されていないところの大枠の内容について、もう少し教えて頂ければありがたいと思います。

もう一つは、応募法人数のところで他に1事業者から開設相談があったと報告がありました。が、中学校圏域だけでも結構ですので差し支えなければ教えて頂ければと思います。

【会長】

ありがとうございます。事務局は回答をお願いします。

【事務局】

はじめに、このたびの募集要項に基づく審査基準の項目数と内容についてご説明申し上げます。審査基準の項目数としましては、全部で26項目ございます。こちらにつきましては、市のホームページにも掲載しておりましたけれども、そのうちの8項目については法人の運営方針・経営の安定性と継続性について審査をしております。公募への応募理由や法人の事業実績、法人の経営状況、今後開設した後の収支計画の見通し等が適切であるか、建設及び運営資金の確保状況や借入をした場合に返済が確実に履行できるかどうかを審査しております。

次に、立地条件・施設整備として6項目ありまして、当該地域における将来的な考え方ということで、このたびのフランシセルについては南原中圏域、HYOコーポレーションについては第二中圏域での高齢者のニーズに応じたサービス提供や将来的なビジョンを持っているかどうか、また、建設予定地の立地条件としまして、この場所が今後利用者家族や地域住民と交流を図る観点から住宅地の中に建っているか、冬期間においても自動車や緊急車両の通行に支障はないか、傾斜地などで高齢者の歩行や車椅子の移動に支障はないか、施設内外はバリアフリーに対応しているか等を審査しております。

次に、利用者への対応として6項目ありまして、利用者の要介護状態の軽減等への取り組み、利用者人権保持・虐待防止対策・苦情処理体制・危機管理体制・感染症予防・衛生管理等が適切に行えるかどうかというところを審査しております。

その他には、地域連携として地域住民やボランティア等との交流や受け入れについて具体的な考えをもっているかどうか、協力医療機関との連携体制を整備できるかどうか、職員の採用についての考え方として市民雇用や在職者の離職防止の具体的な計画があるかどうか等を審査しております。

二つ目のご質問は、公募の際に開設相談をされたにもかかわらず提出されなかった他の1事業所の中学校圏域について教えてほしいとのことですが、設置予定場所は九里学園高校近く（門東町）であり、第二中圏域となります。提出しなかった理由については伺っておりませんので詳しくは分かりませんが、介護職員等の人員の確保や審査基準にある様々な条件をクリアできなかったものと考えております。以上の回答でよろしいでしょうか。

【委員】

はい、分かりました。

【会長】

ただいまの件について、他にも何かご意見等はございますでしょうか。

無いようですので、次の協議事項に移りたいと思います。

(2) 地域密着型サービス事業者（地域密着型通所介護）の指定について

【会長】

協議(2)「地域密着型サービス事業者(地域密着型通所介護)の指定について」、事務局説明をお願いします。

【事務局】

《事務局説明省略》

【会長】

ただいまの件について、何かご意見等はございますでしょうか。

無いようですので、次の協議事項に移りたいと思います。

(3) 松田外科医院の介護医療院転換について

【会長】

協議(3)「松田外科医院の介護医療院転換について」、事務局説明をお願いします。

【事務局】

《事務局説明省略》

【会長】

ただいまの件につきまして、何かご意見等はございますでしょうか。

【委員】

事前に資料の方を頂いておりましたので、中身を拝見させていただいておりました。それで、私の意見でございますが、転換については賛成でございますが、増床については反対でございます。

その理由でございますが、転換については今日の資料の方で説明があったとおり、今期に転換したとしても保険給付費等については問題がないということで、今後転換する予定があった訳でございますので、おそらく予定を早めたのは加算の影響で

はないかと思ったところでございます。あとは、増床については、今期の事業計画の中で、47ページにもありますとおり、施設整備の基本方針については、先ほどの資料のとおりで確認しているところではありますが、「(2) 施設系・居住系サービスの整備方針」の下から4行目には、新たな整備は行わないものとする方針が明記されております。それから、48ページの「(4) サービス毎の利用量の見込み」の中の「①施設サービス」についても、第7期計画期間で新たな整備を見込まないという方針にしている訳でございますので、それらに沿った対応をすべきではないかと思えます。

あともう一点については、増床に伴って増額する保険給付費については、年間700万円程度と試算されておりますけれども、施設サービスにおける保険給付費の約27億円強ほどありますが、その中に占める割合としては1%に満たないような金額かもしれませんが、金額にして700万円が増額されるということになる訳でございます。この700万円を削減することで介護給付費全体を圧縮するということを踏まえれば、今期の計画方針に沿わない点と経費の点を含めて増床は認めるべきではないと考えたところでございます。

【会長】

はい、分かりました。ただいまのご意見は、松田外科医院の介護医療院早期転換については賛成ですが、2床増床の件と施設整備を行わないとする第7期計画に沿った内容で進めるべきではないでしょうかという内容でしたが、他の委員の皆さんは何かご意見等はございますでしょうか。

【会長】

事務局の方から、現在の第7期計画を少し早めて松田外科医院の転換が行われることについて、もう少し説明をいただけないでしょうか。また、保険給付費に700万円という新たな負担が生じることについて、給付費全体に与える影響は少ないとのことでしたが、第7期計画の施設整備方針に反してでも進めていこうとする経緯がありましたら、併せて説明をお願いします。

【事務局】

皆さん、お持ちの事業計画書の46ページを開いてください。下から5行目以降になりますが、第7次山形県保健医療計画との整合性を図るため、療養病床の入院患者の退院後の受け皿として、県から21.14人分の基盤整備を求められています。

先ほどの委員からご指摘のありましたとおり、第7期計画期間中は施設系サービスについては新たな整備は見込まないとしており、この基盤整備については、この

たびの小規模多機能型居宅介護と一緒に公募をかけている４９ページの定期巡回・随時対応型訪問介護看護、５２ページの看護小規模多機能型居宅介護で補うものとしておりました。しかしながら、この定期巡回・随時対応型訪問介護看護と看護小規模多機能型居宅介護の希望者が思うように集まらなく苦慮しているところから、必要な基盤整備の２１．１４人に近づけることができるのではないかと考えているところでございます。

なお、この件につきましては、委員の皆様からご承認をいただけるかどうか検討をお願いしたいと思います。

【会長】

ただいま、事務局から説明のありましたとおり、事業計画の４９ページの定期巡回・随時対応型訪問介護看護と５２ページの看護小規模多機能型居宅介護の整備が難しいという状況にあります。そうしたなかで、このたび松田外科医院からの転換という話がありまして、県の整備方針である２１．１４人を満たせるように少しでも近づけていこうということなのですが、皆さんにお尋ねしたいと思います。

はじめに、松田外科医院の介護医療院転換については、皆さん賛成ということによろしいでしょうか。

【委員】

「異議なし」

【会長】

はい、次に既存の１６床に２床増床して１８床にするかどうかの部分ですが、資料にもありましたとおり保険給付費の増額が約７００万円になるということで、現在の米沢市においては地域密着型サービスの基盤整備が進まない点というところも含めて、皆さんご意見等はございますでしょうか。

【委員】

一つ伺いしますが、資料には既存の建物面積から２床増床可能であるとありますが、増床分を２床と決めたのは最初から２床だったのか、条件が許せばもう少し増やしたかったのかその辺の経緯が分かるようであれば教えてください。

【会長】

ありがとうございます。ただいまのご質問は、増床分を２床としたのは建物面

積が限られているからなのか、もし許せばもう少し増やしたかったのか理由が分かれば、事務局説明をお願いします。

【事務局】

増床分を2床とした理由については、既存の建物面積から利用できる範囲が最大で2床までということ松田外科医院の院長から伺っております。

【会長】

はい、松田外科医院の提案では、既存の建物面積から最大限増やせる範囲が2床までということですね。その他、皆さんからご意見等はございますでしょうか。

【委員】

資料には、平成30年4月27日に松田外科医院の院長から転換時期を2年早めたいという話があったということですが、この第7期計画は平成30年3月に作成したばかりなのに、なぜこのような提案を出されたのか説明してほしい。

また、常時待機者が10名程度いるためとありましたが、この計画書を作成している間にもそのような状況であったと思われるため、その辺のところが何かしっくりこないため計画そのものに問題があったのではないのでしょうか。

もう一点お聞きしたいのは、保険給付費の実績見込みと計画値の差が開きすぎているため、何か理由があつてのことなのではないのでしょうか。介護療養型医療施設給付費は20%、特定給付費は10%余ることですが、こういうものは余れば良いというものでもないと思いますし、有効的に適正に使われるのが妥当ではないかと私は思っております。こういった差というのは何が原因で生じたものなのかお聞きしたいと思います。

【会長】

はい、分かりました。まず一つ目が、なぜ計画開始してまもなく松田外科医院の方からこの提案が出てくるようになったのかということ、二つ目が計画値と実績見込みとの差が大きくなった原因について、事務局説明をお願いします。

【事務局】

はじめに、計画値と実績見込みとの差が大きくなった原因についてご説明いたします。介護施設には利用定員を定めており、事業計画では全てが利用されるものとして給付費を見込んでおりますが、そこに対する実際の利用者数が少ない場合には給付費に余りが生じることになります。松田外科医院においては、16名定員となっておりますが、現在の利用者は常時定員に満たない状況となっている

ことから計画値と差が生じているものです。また、計画値は要介護度がMAXの要介護5の状態の方が利用されるものとして算出しておりますが、実際の利用者には要介護3や要介護4のような方もいらっしゃいますので、こういった介護の手間の差によって給付費の計画値と実績見込に差が出てくるというものです。

もう一つのご質問ですが、なぜ介護医療院転換の計画が前倒しになったのかという件については、松田外科医院の院長から7月に話を伺っておりますけれども、国や県が主催する医療従事者向けの会議や研修会等で、介護医療院の設置期限についての話がたびたび出ていることや、松田外科医院において改修費用の資金計画も準備が整ったこともあり、早くしなければならぬと背中を押されたことが理由かと思われます。

【会長】

はい、ありがとうございました。早まった理由としては、松田先生の方で準備が整ったということが大きな理由のようですが、第7期計画とは予定が違いますが本市の県から示された数値に近づけたいという思いや地域密着型サービスの現状を考えると、こういった介護医療院転換を今期で受け入れるという方法もあるのかと思います。

【委員】

松田外科医院が計画を前倒ししたのは背中を押されたということですが、給付費の計画値は定員がMAXで算出しているということですが、前年実績であるとか過去何年とかのデータを見て算出できると思いますので、MAXで見込んで給付費が余るということは過去の実績を考慮して少し減らすなどすれば他にやれることがあるのではないかという気がしてなりません。そのため、MAXで計画値を見込むということに素朴な疑問があります。

【委員】

2床増床についての先ほどの説明の確認ですが、定期巡回・随時対応型訪問介護看護と看護小規模多機能型居宅介護の整備がなかなか思うようにいかないという推測をもとに2床増床になるということによろしかったでしょうか。

【事務局】

現在、米沢市内の介護職の人数が少ないというのもあるのですが、同じように看護師の人材が少ないという現状もありまして、定期巡回・随時対応型訪問介護看護と看護小規模多機能型居宅介護については、看護師を常駐させなければならない設置基準となっており、そのような背景から設置に関する問い合わせ件数が

全く無い状況となっています。このため、第7期計画期間中に整備したいという気持ちはあるのですが、このたびの介護医療院によってそれを補うことができるのではないかと考えております。

【事務局】

高齢福祉課長の神保と申します。今、ご質問のありました計画値との乖離がある点についてですが、どうしても施設の定員というものをベースにして、もちろん委員がおっしゃる様に前年度の実績等を加味したものとなっております。ただどうしても、要介護3で入所している方が急に要介護5に上がるなどの不測の事態に備えてある程度の余裕は持たなければならない考えは計画の中でも出てくるところでございます。介護保険制度の場合、制度そのものが皆様から頂いている介護保険料で賄うというのが大原則となっておりまして、万が一不足が生じた場合には基金の取り崩しであったりとか、県からの借入れをして次の期になってその分まで加えて介護保険料に上乗せしなければならないといった事情があって、そこはある程度の乖離幅が必要になってくるという仕組みについてはご理解を頂きたいと思います。もちろん、計画との乖離幅が少なくなるように近づけようと努力はしているところでございますのでご理解を頂きたいと思います。

【委員】

はい、分かりました。

【会長】

他にご意見等はございませんでしょうか。

ただいまの委員からの質問や事務局からの説明を集約しますと、本市の看護師不足や地域密着型サービスの現状を考えますと介護医療院を18床にするという考え方もあると思うのですが、他にご意見とはありますでしょうか。

【委員】

ここは、皆さんでの多数決での判断でよろしいかと思います。

【会長】

はい、ありがとうございます。それでは、皆さんから多数決で決定したいと思います。今回の事務局が示している18床の案でよろしいと思われる方は挙手をお願いします。

《賛成多数の挙手あり》

【会長】

今、複数の委員の方から様々な貴重なご意見を頂きまして、今後は計画に沿って進めていきたいと思いますので、また活発なご意見で議論して良いものになっていければと思います。このたびは、賛成多数で18床を承認するという事で決定したいと思います。

【会長】

他には何かご意見等はございますでしょうか。無いようでしたら次に移ります。

(3) その他

【会 長】

それでは、3「報告」並びに4「その他」について、次第には予定は無いようですが事務局の方から何かありますでしょうか。特に無いようでしたら、これで、第2回米沢市介護保険運営協議会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。